



国際ロータリー2024-25年度テーマ

第2780地区
ガバナー
佐々木 辰郎

第3グループ
ガバナー補佐
新井 智代



■創立 / 昭和29年6月3日 ■第71代 会長 / 吉野 貴美 幹事 / 大貫 美則
 ■事務所 / 藤沢市藤沢93新堀ライブ館204 TEL: 0466-25-4000 FAX: 0466-26-9292 E-mail: info@fujisawa-rotary.com
 ■例会日 / 毎週水曜日 12:30~13:30 ■例会場 / 湘南鎌倉クリスタルホテル TEL: 0466-28-2111

NO.4 第3346 例会 2024年 7月 17日 天候 曇り一時雨

ロータリーソング「それでこそロータリー」
「四つのテスト」 崎山 直夫 会員

《ゲスト・ビジターの紹介》

卓話ゲスト：田川 尚登 様
 (認定NPO法人横浜子どもホスピス 代表理事)
 (紹介者：大小原 徹 会員)

《会長挨拶》

- ・70周年記念事業として、米山記念奨学会へ特別寄付をしました。お礼状と記念の盾が参りましたので、ご披露致します。
- ・7月の会長幹事会で、今後のロータリー活動の指針として、単年度ではなく、3年間の継続的目標設定を立てるようお話がありました。藤沢RCでは継続した奉仕活動があり、NEXT10ビジョンの制定をし、ている旨をお伝えしました。今後3-YEAR ROLLING TARGETという言葉が、よく聞かれるようになると思います。

《幹事報告》

- ・7月24日(水)ロータリーの森リニューアル整備工事のお披露目会、工場見学、夜間例会新会員歓迎会の出欠締め切りが、本日です。事務局にご連絡をお願いします。

出席報告 ()内は計算に用いた会員数

- ・7月27日(土)、湘南学園で帯広大谷高校インターアクトクラブと湘南学園インターアクトクラブの交流会が開催されます。詳細は委員会報告でお話いただきます。
- ・委員会・会議等
7月20日 地区インターアクト委員会
出席者：廣島 副委員長 星谷委員
- ・8月21日のガバナー公式訪問の後、懇談会があります。ご予約ください。
- ・第3グループ10クラブで共同事業を検討中。
- ・8月4日、財団奨学生の藤原和奏さんのコンサートのお知らせ

《委員会報告》

- ・棕梨青少年カウンセラー
フランス派遣の吉田芽衣さん、羽田空港到着AM5時55分とのことです。ご都合のよい方お迎えお願い致します。
- ・棕梨国際奉仕委員長
11月のカンボジアスタディーツアーの日程が決まりました。11月28日~12月2日です。ぜひご参加下さい。
- ・鈴木財団補助金委員長
地区補助金セミナーが開催されました。寄付金の流れの説明、グローバル補助金利用の計画を

例会月日	会員数	出席会員数	欠席会員数	出席率	メイクアップ 会員数	修正出席者数	修正出席率
7月3日	41(39)名	30名	9名	76.92%	0名	30名	76.92%
7月17日	41(38)名	27名	12名	71.05%			

今後したいと思います。

・金石 プログラム・親睦副委員長

7月24日の夜間例会会場、海の家ということで、ホテルにバスを經由して着替えていただく事が出来ます。

・広島インターアクト副委員長

7月27日(土)、湘南学園でインターアクトクラブの交流会を開催致します。3回目になります。9時45分、湘南学園集合で海岸清掃後、江の島めぐり、学校で交流会をします。地区補助金のお話がありましたが、大谷高校インターアクトクラブは帯広ロータリークラブが地区補助金事業として行っているとうかがいました。湘南学園インターアクトクラブから、大谷高校インターアクトクラブへ行くことも検討出来たらと思っています。

《お祝い》

結婚記念日 7月15日 横山 佳右 会員



《スマイル報告》

棕梨 兼彰 会員

田川様、本日の卓話宜しくお願ひ致します。

大小原 徹 会員

田川様、本日の卓話よろしくお願ひ致します。

小河 静雄 会員

市民まつりの会議が長引き、遅刻してしまいました。すみません。

田川さん、卓話を楽しみにしています。

小澤 智幸 会員

田川様、ようこそ。卓話楽しみにしています。

鈴木 大次 会員

田川様、卓話宜しくお願ひ致します。

横山 佳右 会員

きれいなお花を有り難うございました。

前回、例会、イニシエーションスピーチドタキャン失礼しました。次回万全を期します。

《小話 3分間スピーチ》

崎山 直夫 会員



カウンセラーをしてらっしゃる、米山奨学生のサリム、ブライアンさんの最近の様子をお話下さいました。ブライアンさんのお母様が来日なさった際は、新江ノ島水族館をご案内下さったそうです。ブライアンさん、インドネシア語、英語、中国語と日本語を話すそうで、崎山カウンセラーとのLine連絡は英語でなされているそうです。

《卓話》

「知育に根差した

こどもホスピスをめざして」

認定NPO 法人横浜こどもホスピス





田川様、藤沢 RC へのご来会は 2 度目です。前回はこどもホスピス設立の準備中でした。

2021 年横浜市金沢区に日本で 2 例目の民間こどもホスピスを開設なさいました。きっかけは、田川様のお子様が 6 歳で、悪性脳腫瘍で亡くなられたことでした。看取った後、後悔の念が心を占領し 4 年半も前向きになれなかったのが、医療スタッフの寄り添いが感謝の気持ちとなり、一步前に踏み出すことが出来たそうです。終末期の心を許せる相談相手のいることが、後悔の念を感謝に結びつかせるとうかがいしました。普通の毎日が幸福な時間であり、限りある命でも深く生きることが出来る、だからこそ豊かに生きることが重要だということが、お嬢様の死から気づきとなったそうです。小児医療の環境改善を課題として与えられたのだと思ったそうです。

2012 年、元看護師の石川好枝さんが立ち上げた日本で初めての子どもホスピスプロジェクトが発足していましたが、発起人石川さんの死により、頓挫してしまいました。田川様が運営していた付き添いの家族が安心して泊れる施設に一部遺贈を受けたことがきっかけで、石川さんの意思を引き継ぐことになりました。

田川様はイギリスのこどもホスピスに 3 年間、ドイツに 2 年通い、アドバイスを受け、勉強しました。公的制度ではカバーし難いニーズを重視し、地域に根差した自発的活動をしています。こどもホスピスは病院ではなく、おうちです。スタッフは家族と共に友として寄り添います。制度に依拠しない独立した施設で、寄付に頼る慈善事業として運営されています。施設では健常児と同じことを行なっています。重い病気の子どもが家ではできないことをこどもホスピスでやり、楽しい時間を過ごします。

日本には命を脅かす病気のこどもが約 2 万人いると言われています。そのこどもの家族は地域の中で孤立しているのが現状です。小児緩和ケア先進国では、在宅で家族もケアされます。こどもホスピスでは医療では充足できない側面を主眼に置き、こどもの生きる時間を後回しにしません。また家族支援が心のよりどころそして重要な役割を果たします。

2021 年に設立完成した「うみとおらのおうち」では終末期のこどもに必要なこと、こどもと家族が安心して一緒に過ごせる場所であり、主治医と緩和ケアの専門チームの連携で家族を守り、終末期でもこどもが楽しく過ごせる支援、親と兄弟のサポートを行っています。スタッフは家族の一人として、利用者の声と心に耳を傾けながら、一緒に時間を過ごしているそうです。こどもとの別れの後もうみとそらのおうちは安心なまた来たい場所、地域で愛される場所となっていく事を目差して活動なさっています。



うみとそらのおうちの紹介ビデオを見せていただきました。

卓話後、会員皆様からの寄付を募りました。



本日のお料理

